

新律適用

平山果編輯  
上

東京圖書館

新門三七函

部一 架一

類 號

平山果編輯

# 新律適用

全三冊

版權免許 高山堂藏版

特39  
735

## 新律適用序

羅馬人。梭倫也者。夙志于律學。垂帷閱數年。其友問曰。子之於律。螢雪不晷也。想當其所得。極大。請聞其說。梭倫曰。偶然耳。夫律主適用。寧可期後世乎哉。今日行此律。明日不適民情。則律亦不得不從而改更也。吁。三字之格言。誠可謂得法律之要領也矣。今也。在上法官。見我民智日開。達遠徵文明國。彼我相折衷。而刑法已成焉。雖未行諸實際。然其適

新律適用序

羅馬人。梭倫也者。夙志于律學。垂帷閱數年。其友問曰。子之於律。螢雪不啻也。想當其所得。極大。請聞其說。梭倫曰。偶然耳。夫律主適用。寧可期後世乎哉。今日行此律。明日不適。則律亦不得。不從而改更也。吁。三字之格言。誠可謂得法律之要領也矣。今也。在上。法官。見我民智。日開達。遠徵文明國。彼我相。折衷。而刑法已成焉。雖未行諸實際。然其適

新律適用序  
第一

民情果知如琴石相應鏘々者上也。余深美有  
 此盛舉。乃就刑法全編每一章一節。拔集冠  
 各條全題。刑名而逐次順署。以爲適用法律  
 綱領。書片字。加註解。直論究此刑名性質。及  
 精神。結最段論。而記入各條於中間。標守  
 護本題。幫助至末段。說明適用法律固當如  
 此者。終全段論。而往々編集爲一卷。因題曰  
 新律適用。余自強爲下語。記刑名標識。敢非欲  
 公諸世也。偶應友人勸。姑試。投劄。劄氏云。

明治十三年。秋。十月。下浣。

躬耕庵自序

新律適用第一

○凡例、

一此書ノ文章ハ、這回、新奇ノ發明ニノ、旧來習用スル所ノ漢文格ノ如ク、熟セサレハ得難キノ迂遠ナルヲ不便トシ、乃チ、西洋文典ト同ク、法格一定ニ歸シ、偏ニ把筆ノ簡易ナルヲ要ス、苟モ、紙筆ヲ取テ意見ヲ伸述セント欲スル者ハ、警客ナリ、聾人ナリ、此文格ニ依ラハ、如何ナル難事ト雖、容易ニ作文スルヲ得、尤モ其捷徑ナルヲ以テ、法律ノ適用ニ施行シテ、極テ妙法タルヘシ、一此書ノ組織ハ、逐條審議ノ煩キヲ爲サス、直接ニ刑法ニ編次スル毎章毎節ニ冠スル刑名ヲ題シ、而シテ法律ノ適用、又ハ犯罪ノ性

質ヲ推論シ、各本條ヲ論段ノ中間ニ記入シ、一節ノ罪名ヲ掲序シテ、以テ擬律ノ參考ニ供ス、看客、若シ、其文短ニシテ刑ノ適用未タ十分ニ盡サスト思惟セハ、則チ記入ノ各條ニ比照スレハ、種々ノ罪名ヲ見出スヘシ、而シテ、刑ノ適用猶ホ本論ノ主義ニ違ハサレハ、法律ノ執行ニ於テ、一髮ノ誤謬ナカルヘシ、

一此書ニ編スル、本題刑名ノ右傍ニ重環點ヲ施加スル者ハ、章ニ屬スル刑名ノ總題ヲ標スルナリ、又、刑名ノ右傍ニ唯タ環點ノミヲ施加スル者ハ、各條ニ冠スル節ニ署スル刑名ノ總題ヲ標スルナリ、看客宜ク錯雜ノ觀解ヲ爲スナカルヘシ、

一違警罪ニ各條ヲ管スル章節ナケレハ、乃チ、每條ヲ冠シテ節題ニ

換へ、支條ノ罪名ヲ掌司シテ、刑ノ適用ヲ推論ス、看客、幸ニ疑團ヲ懷クナカレ、

新律適用第一目錄

- 第一編、 總則、
- 第一章、 法例、
- 第二章、 刑例、
- 第一節、 刑名、
- 第二節、 主刑處分、
- 第三節、 附加刑處分、
- 第四節、 徵償處分、
- 第五節、 刑期計算、
- 第六節、 假出獄、

○第七節、 期滿免除、

○第八節、 復權

○第三章、 加減例、

○第四章、 不論罪、及、減輕、

○第一節、 不論罪、及、宥恕、減輕、

○第二節、 自首減輕、

○第三節、 酌量減輕、

○第五章、 再犯加重、

○第六章、 加減順序、

○第七章、 數罪俱發、

○第八章、 數人共犯、

○第一節、 正犯、

○第二節、 從犯、

○第九章、 未遂犯罪、

○第十章、 親屬例、



# 新律適用第一

平山 果編輯

- 刑法、社會ノ秩序人民ノ安寧ヲ保護スル爲ニ、制裁ヲ規定シ、犯罪ヲ証明シ、刑ヲ適用スルヲ云
  - 第一編、一屬ノ章節條ノ首尾ヲスヘ、ク、ル總稱ヲ掲テ、云フ、
  - 總則、此刑法ニ、關スル一切ノ原則ヲ總包シ、彼此ノ法律條目ニ比照シ、刑ノ適用ヲ爲スヲ云、
  - 第一章、一段屬ノ章節條ノ刑名ヲスヘク、ル者ヲ云フ、
  - 法例、成文、刑法ノ古今ニ照シ、情理ニ協ヘ、當然ナル、法律ノ通例ヲ云フ、
- 此、法例ノ精神ハ、如何ナル區域ヲナシ、如何ナル運用ヲナストセハ、則チ法例ニ屬スル條目有テ、其目的ヲ達ス、第一條ニハ、凡法律ニ、於テ罰ス可キ罪、別テ三種ト爲

ス、ト云フ成文有テ、一、重罪、二、輕罪、三、違警罪ノ區別ヲ詳カニシ、第二條ニハ、法律ニ正條ナキ者ハ、何等ノ所爲ト雖、之ヲ罰スルヲ得ス、ト記シテ、法例ノ成規ヲ定メ、第三條ニハ、法律ハ、頒布以前ニ及ホスヲ得ス、ト記シテ、法律ノ定規ヲ示シ、若シ、所犯頒布以前ニ在テ、未タ判決ヲ經サル者ハ、新舊ノ法ヲ比照シ、輕キニ從テ、處斷ス、ト附シテ、法律ノ運用ヲ擴メ、第四條ニハ、此刑法ハ、陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ、施用スルヲ得ス、ト記シテ、法律ノ運用ヲ擴メ、第五條ニハ、此刑法ニ正條ナクシテ、他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ、各、其法律規則ニ從フ、ト記シテ、法律ノ活用ヲ便ニシ、若シ、他ノ法律規則ニ於テ、別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ、此刑法ノ總則ニ從フ、ト加附シテ此總則ノ區域ヲ廣大ニシテ、刑法ノ目的ヲ達スルヲ要セリ、

如此、法例ヲ助護スル條目ヲ指使シテ、刑ノ適用ヲ全フス、故ニ、法例常ニ含有スル所ノ條目ヲ、中間ニ記入シテ、法例ノ分子トナシ、法例ハ、分子ノ條目ニ依テ、刑法ノ目的ヲ、適用スルヲ得ルノ性質タルヲ知ルヘシ

○第二章、前章ニ於テ、說明セリ、

○刑例、刑名ノ各本條ヲ包有スル、一體ノ秩序ヲ、概シテ云フ、

○第一節、一段屬ノ條目ヲ度シ、一切ノ刑名ヲ、總包スルヲ云、

○刑名、刑例ニ包有スル、各本條ニ定メタル、主刑ノ罪名ヲ、總稱シテ云フ、

此刑例ハ、法律ヲ運用スルニ於テ、裁許ノ權限ヲ有シテ、主刑ノ區域ヲ裁定シ得ルトセハ、則チ刑例ニ屬スル、第一節ノ刑名、各本條ヲ擣集シテ、刑例ヲ助護シ、主刑ノ輕重ヲ分別ス、第六條ニハ、刑ハ、主刑及ヒ附加刑ト爲ス、ト記シテ、刑名ヲ二種ニ別チ、主刑ハ、之ヲ宣告ス、ト附シテ、法律ノ手續ヲ定メ、附加刑ハ、法律ニ於テ、其宣告スル者ト、宣告セサルモノヲ定ム、ト記シテ、其著手ヲ區別シ、第七條ニハ、左ニ記載シタル者ヲ以テ、重罪ノ主刑ト爲ス、ト記シテ、一、死刑、二、無期徒刑、三、有期徒刑、四、無期流刑、五、有期流刑、六、重懲役、七、輕懲役、八、重禁獄、九、輕禁獄、ト記シテ、刑名ノ秩序ヲ明カニシ、第八條ニハ、左ニ記載シタル者ヲ以テ、輕罪ノ主刑ト爲ス、一、重禁錮、二、輕禁錮、三、罰金、ト記シテ、輕罪ノ主刑ヲ明カニシ、第九條ニハ、左ニ記載シタル者ヲ以テ、違警罪ノ主刑ト爲ス、一、拘留、二、料科、ト記シテ、違警罪ノ主刑ヲ區別シ、第十條ニハ、左ニ記載シタル者ヲ以テ、附加刑、一、剝奪公權、二、停止公權、三、禁治童、四、監視、五、罰金、六、沒收、ト記シテ、最大ノ主刑ヲ定メ、第十一條ニハ、刑ヲ執行シ、及ヒ犯人ヲ檢査スル方法細目ハ、別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム、ト記シテ、其方法ヲ綿密ニス、令之ヲ 如此、刑名ノ活動ニ依テ、中間ニ秩序スル、條目ヲ左右スルヲ得ハ、刑例ノ權限ハ、區域愈々廣ク、刑法一體ノ本條ニ關涉スル、性

質タルヲ、知ルヘシ

第二節

○主刑處分、條目ニ、夫々記載スル所ノ刑名ヲ該テ、此主刑處分ハ、何等ノ主刑ヲ掌司シ、何等ノ法律ヲ擬シテ、犯罪ヲ處分ストセハ、則チ各條ニ記載スル、刑名ヲ犯罪ニ宣告シテ、社會ノ安寧ヲ保護ス、

但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ、獄内ニ於テ之ヲ行フ、ト記シテ處刑ノ成規ヲ定メ、第十三條ハ、死刑ハ、司法卿ノ命令アルニ非サレハ、之ヲ行フコト得ス、ト記シテ、テ死刑ノ容易ナラサルヲ示シ、第十四條ニハ、大抵、令節、國祭ノ日ハ、死刑ヲ行フコト得ス、ト記シテ、禁刑ノ時日ヲ確定シ、第十五條ニハ、死刑ノ宣告ヲ受ケル、婦女懷胎ナル時ハ、其執行ヲ停メ、分娩後、一百日ヲ経ルニ非サレハ、刑ヲ行ハス、ト記シテ、法律ノ寬大ナルヲ明ニシ、第十六條ニハ、死刑ノ遺骸ハ、親屬、故舊、請フ者アレハ、之ヲ下付ス、但式ヲ用ヒテ、葬ルコト許サス、ト記シテ、一ハ寬典ヲ示シ、一ハ懲罰ヲ表ス、第十七條ハ、徒刑ハ、有期、無期ヲ分タス、島地ニ發遣シ、定役ニ服ス、ト記シテ、服役ノ場所ヲ定メ、有期徒刑ハ、十二年以上、十五年以下ト爲ス、トアリテ、有期年限ヲ定規シ、第十八條ニハ、徒刑ノ婦女ハ、島地ニ發遣セス、内地ノ懲役場ニ於テ、定役ニ服ス、ト記シテ、男女ヲ分テ寬典ニ處ス、第十九條ニハ、徒刑ノ囚、六十歳ニ滿ル者ハ、通常ノ定役ヲ免シ、其體力相當ノ定役ニ服ス、ト記シテ、其老ヲ憐ミ、第二十條ニハ、流刑ハ、無期有期ヲ分タス、島地ノ獄ニ幽閉シ、定役ニ服セス、ト記シテ、流刑ノ

處置ヲ定メ、有期流刑ハ、十二年以上、十五年以下ト爲ス、トアリテ、流刑ノ年限ヲ定ム、第二十一條ニハ、無期流刑ノ囚、五年ヲ經過スレハ、幽閉ヲ免シ、島地ニ於テ、地ヲ限り、居住セシムルコト得、ト記シテ處刑ヲ寬ニシ、有期流刑ノ囚、三年ヲ經過スル者亦同シ、トアリテ、輕重ノ罪ヲ別ツ、第十二條ハ、懲役ハ、内地ノ懲役場ニ入レ、定役ニ服ス、ト記シテ、懲役ノ成規ヲ定メ、但六十歳ニ滿ルモノハ、第十九條ノ例ニ從フ、トアリテ、寬典ヲ加ヘ、重懲役ハ、九年以上、十一年以下、輕懲役ハ、六年以上、八年以下ト爲ス、ト定限ヲ立テ、輕重ヲ別ツ、第二十三條ニハ、禁獄ハ、内地ノ禁獄ニ入レ、定役ニ服セス、ト記シテ、禁獄ノ處分ヲ表シ、又重禁獄ハ、九年以上、十一年以下、輕禁獄ハ、六年以上、八年以下ト爲ス、トアリテ、年限ノ長短ヲ定別ス、第二十四條ニハ、禁錮ハ、禁錮場ニ留置シ、重禁錮ハ、定役ニ服シ、輕禁錮ハ、定役ニ服セス、ト記シテ、禁錮處分ノ輕重ヲ分限ス、又禁錮ハ、輕重ヲ分タス、十一日以上五年以下ト爲シ、仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス、トアリテ、時日年限ノ長短ヲ定ム、第二十五條ニハ、定役ニ服スル囚人ノ賃錢ハ、監獄ノ規則ニ從ヒ、其幾分ヲ囚人ニ給與ス、但現役百日以內ハ、給與ノ限ニ在ラス、ト記シテ、囚人ノ勞ヲ慰シ、且ツ給與ノ程限ヲ定ム、第二十六條ニハ、罰金ハ、二圓以上十圓以下ト爲シ、仍ホ各本條ニ於テ、多寡ヲ區別ス、ト記シテ、罰金ノ定額、及ヒ犯罪ニ因リ多少ヲ別ツ、第二十七條ニハ、罰金ハ、裁判確定ノ日ヨリ、一月内ニ納完セシム、若シ限内納完セサル者ハ、一圓ヲ一日ニ折算シ、之ヲ輕禁錮ニ換フ、其一圓ニ滿サル者ト雖、仍ホ一日ニ折算ス、ト記シテ、罰金納完ノ期ヲ定メ、且ツ否セサルモノ、處分ヲ別ツ、罰金ヲ納メタル時ル者ハ、更ニ裁判ヲ用ヒス、檢事ノ求ニ因リ、裁判官之ヲ命ス、ト若シ禁錮限内、罰金ヲ納メタル時ハ、其經過シタル日數ヲ扣除シテ、禁錮ヲ免ス、但親屬、其他ノ者、代テ罰金ヲ納メタル時、亦同シ、ト記シテ、方一ヲ預防シ、處分ノ運用ヲ便ニス、第二十八條ニハ、拘留ハ、拘留所ニ留置シ、定役ニ服セス、其刑期ハ、一日以上、十日以下ト爲シ、仍ホ各本條ニ於テ、其長短ヲ區別ス、ト記シテ、拘留ノ期限、及ヒ日數ノ長短ヲ定規ス、第二十九條ニハ、料料ハ、五錢以上、一圓九十五錢以下ト爲シ、仍ホ各本條ニ於テ、其多寡ヲ區別ス、ト記シテ、料料ノ金額ヲ定メ、犯罪ニ依テ多少ヲ別ツ、第三十

條ニハ、科料ハ、裁判確定ノ日ヨリ、十日内ニ納完セシム、若シ限内納完セサル者ハ、第二十七條ノ例ニ照シ、拘留ニ換フ、ト記シテ、科料ノ納限ヲ定メ、否セサル者ハ、例ニ照シテ裁判ノ運用ヲ便ス、如此、中間ニ換載スル、各本條ニ比照シ、犯罪ノ輕重ヲ區別シ

テ、刑名ノ主眼ヲ適用スルハ、主刑處分ノ四字ヨリ生スルモノニシテ、其國安ヲ保護スルノ効、亦大ナルヲ知ルヘシ、

○第三節、

○附加刑處分、重罪、輕罪ニ區別アリト雖、各自ノ刑ニ處シタル上ニ猶ホ追加此附加刑處分ノ目的ハ、如何ナル犯罪ノ種類ヲ區別シ、如何ナル刑名ヲ

適用スルトセハ、則チ各條ノ精神ヲ盡シテ、刑法ノ本意ヲ洞達ス、第三十一條ニハ、剝奪公權ハ、左ノ權ヲ剝奪ス、一、國民ノ特權、二、官吏ト爲ルノ權、三、勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權、四、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權、五、兵籍ニ入ルノ權、六、裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權、但單ニ事實ヲ陳述スルハ、此限ニ在ラス、七、徵見人ト爲ルノ權、但親屬ノ許可ヲ得テ、子孫ノ爲メニスルハ、此限ニ在ラス、八、分散者ノ管財人ト爲リ又會社、及ヒ、共有財産ヲ管理スルノ權、九、學校長、及ヒ教師等、監ト爲ルノ權、ト記シテ、犯罪ニ依リ、各

自ノ權ヲ區別シテ、剝奪シ、或ハ非限例ヲ以テ、寬典ヲ加ヘ、第三十二條ニハ、重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ、別ニ宣告ヲ用ヒス、終身公權ヲ剝奪ス、ト記シテ、重罪ノ刑限ヲ立テ、第三十三條ニハ、禁錮ニ處セラレタル者ハ、別ニ宣告ヲ用ヒス、現任ノ官職ヲ失ヒ、及ヒ、其刑期間、公權ヲ行フヲ停止ス、ト記シテ、禁錮ノ處刑ヲ別ツ、第三十四條ニハ、輕罪ノ刑ニ於テ、監視ニ付シタル者ハ、別ニ宣告ヲ用ヒス、監視ノ期間、公權ヲ行フヲ停止ス、ト記シテ、輕罪ノ處分ヲ寬典ニス、主刑ヲ免シテ、止テ監視ニ付シタル者亦同シ、トアリテ、免罪、監視ノ處分ヲ別ツ、第三十五條ニハ、重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ、別ニ宣告ヲ用ヒス、其主刑ノ終ルマテ、親ヲ財産ヲ治ムルヲ禁ス、但其財産ハ、復見入ヲシテ之ヲ管理セシム、ト記シテ、重罪ノ所爲ハ、主刑ヲ科ス、一層、嚴ナルヲ示シ、第三十六條ニハ、流刑ノ囚、幽閉ヲ免セラレタル時ハ、行政ノ處分ヲ以テ、治産ノ禁ノ廢分ヲ免スルヲ得、ト記シテ、處分ノ寬典ヲ示シ、第三十七條ニハ、重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ、別ニ宣告ヲ用ヒス、各本刑ノ短期、三分ノ一二等シキ時間、監視ニ付ス、ト記シテ、罪人保護ヲ深切ニス、第三十八條ニハ、輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ、之ヲ宣告ス、但各本條ニ記載スルノ外、監視ニ付スルヲ得ス、ト記シテ、輕罪ノ附加刑ヲ、區別ス、第三十九條ニハ、死刑、及ヒ、無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ、別ニ宣告ヲ用ヒス、五年間、監視ニ付スト記シテ、期滿免除、後ノ監視年限ヲ定ム、第四十條ニハ、監視ノ期限ハ、主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス、主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ、其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス、若シ主刑ヲ免シ、止テ監視ニ付シタル時ハ、其裁判確定ノ日ヨリ起算ス、ト記シテ、監視ノ起算日限ヲ定ム、第四十一條ニハ、監視ニ付セラレタル者、其情狀ニ因リ、行政ノ處分ヲ以テ、假ニ監視ヲ免スルヲ得、ト記シテ、犯人ノ情狀ヲ酌量シテ、處分ヲ寬典ニス、第四十二條ニハ、附加ノ罰金ハ、之ヲ宣告ス、若シ一月内ニ、納完セサル時ハ、第二十七條ノ例ニ照シ、輕禁錮ニ換ヘ、主刑滿期ノ後、之ヲ執行ス、ト記シテ、附加ノ罰金、不納完ノ處分ヲ定規ス、第四十三條ニハ、左ニ、記載シタル物件ハ、宣告シテ、官ニ沒收ス、但、法律規則ニ於テ、別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ、各其法律規則ニ從フ、一、法律ニ於テ、禁制シタル物件、二、犯罪ノ用ニ供シタル物件、三、犯罪ニ因テ、得タル物件、ト

記シテ、各物件ヲ區別シテ、沒收例ヲ定ム、第四十四條ニハ、法律ニ於テ、禁制シタル物件ハ、何人ノ所有ヲ問ハス、之ヲ沒收ス、犯罪ノ用ニ供シ、及ヒ犯罪ニ因テ、得タル物件ハ、犯人ノ所有ニ係リ、又ハ所有主ナキ時ノ外、之ヲ沒收スルヲ得ス、ト記シテ、法律上ニ定メタル物件ハ、之ヲ沒收シ、又所有主ナキ時、亦同ノ處分ヲ定ム、如此、法律規則ヲ運用シ、彼レニ成文ナケレハ、此レニ正條ヲ求メ、彼此相比照テ、罪證ヲ失セス、適然刑名ヲ科ス、以テ社會ノ害物ヲ除ク、天下、一日モ刑法ナカル可ラサルヲ知ルヘシ

○ 第四節

○ 懲罰處分、犯罪人、主刑ヲ受ケタルニ上ニ、猶ホ、其所爲ヲ懲シ、裁判費用及ヒ被害者ノ賠償等ヲ、犯人ニ一七科スルヲ云フ、此 懲罰處分ノ法律ヲ使用スル精神ノ定度ハ、犯罪ニ對シ、主刑ノ幾部分ヲ負擔スルセハ、則チ、一屬ノ條目ヲ引率シテ、所有ノ刑名ヲ主任ス、第四十五條ニハ、刑事ノ裁判費用ハ、其全部、又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス、但其費用ノ額ハ、別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム、ト記シテ、犯人ノ不當ヲ懲シ、第四十六條ニハ、犯人刑ニ處セラレ、又ハ、放免セラレ、ト雖モ、被害者ノ請求ニ對シ、贓物ノ還給、損害ノ賠償、ヲ免カル、トヲ得ス、ト記シテ、被害者ノ損害ナキヲ要ス、第四十七條ニハ、犯人共犯ニ係ル裁判費用、贓物ノ還給、損害ノ賠償ハ、共犯人ヨリシテ、之ヲ連帶セシ

ム、ト記シテ、犯人共犯ノ賠償規則ヲ定ム、第四十八條ニハ、裁判ノ費用、贓物ノ還給、損害ノ賠償ハ、被害者ノ請求ニ因リ、刑事裁判所ニ於テ、之ヲ審判スルヲ得、若シ贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ、請求ナシト雖モ、直チニ、之ヲ所有主ニ還付ス、ト記シテ、費用、還給、賠償ノ三ツノ者、失々手ヲ盡シテ、被害者ノ損害ヲ補償ス、如此、犯罪ノ種類ヲ區別シ、彼レ不理ナレハ、之ヲ追懲シ、此レニ損害アレハ、之ヲ賠償シ、權衡度ヲ誤ラズ、刑法ヲ順使シテ、人民ヲ愛護スルハ、是、司法者ノ尤モ注意スル所ナル、ヲ知ルヘシ

○ 第五節

○ 刑期計算、日、月、年、時、ノ度ヲ限定シ、罪ノ輕重ヲ區別シ、此刑期計算ノ主任ハ、法律ヲ荷擔スル權限、幾分ヲ有シテ、精神ヲ活動スルトセハ、則チ、各條ニ定載スル所ノ刑期ヲ計算シテ、罪ノ輕重ヲ分別ス、第四十九條ニハ、刑期ヲ計算スルニ、一日ト稱スルハ、二十四時ヲ以テシ、一月ト稱スルハ、三十日ヲ以テシ、一年ト稱スルハ、曆ニ從フ、受刑ノ初日ハ、時間ヲ論セス、一日ニ算入シ、放免ノ日ハ、刑期ニ算入セス、ト記シテ、日時月年ノ期ヲ定メ、受刑放免ノ時ヲ別ツ、第五十條ニハ、刑ハ、裁判確定シタル後ニ非サレハ、之ヲ執行スルヲ得ス、ト記シテ、主刑ノ宣告ヲ鄭重ニス、第五十一條ニハ、刑期ハ、刑名、宣告ノ日ヨリ起算ス、

若シ上告ヲ爲シタル者、左ノ例ニ從フ、一、犯人、自ラ上告シテ、破毀ヲ得タル者ハ、前判、宣告ノ日ヨリ起算ス、若シ、其上告不當ナル時ハ、後判宣告ノ日ヨリ起算ス、二、故事ノ上告ニ係ル者ハ、其破毀ヲ得ルト否トヲ分タス、前判、宣告ノ日ヨリ起算ス、三、上告中、保釋ヲ得、又ハ、責付セラレタル者ハ、其日數ヲ、刑期ニ算入スルヲ得ス、ト記シテ、犯人ニ、自由權ヲ與ヘ、上告ノ理否ニ因テ、刑期前被ヲ定ム、第五十二條ニハ、刑期限内ニ逃走シ、再ニ捕ニ就キタル者ハ、其逃走ノ日數ヲ除キ、前被受刑ノ日ヲ計算ス、ト記シテ、刑期限内ニ逃走ノ犯人ヲ處スル律ヲ定ム、如此、被條ヲ用ヒ、此目ヲ使シ、時日年月ヲ算シテ、刑期ノ長短ヲ定メ、刑法ノ目的ヲ失ハス、國人ノ安寧ヲ保護ス、因テ刑ノ適用、誠ニ、容易ナラサルヲ知ルヘシ、

○第六節、

○假出獄、輕重罪ニ處セラレタル者、改心ノ狀アリ、及ヒ、刑期、四分ノ三、此假出獄ノ區域ハ、法律ニ從テ幾程ノ主任ヲ負擔シテ、罪囚ヲ處スルトセハ、則チ受刑ノ囚人、惡意ヲ悔改シ、今後ヲ謹慎スルノ狀アルヲ認定シ、刑名シ寛假シテ、罪ノ輕重ニ應シ、行政ニ處分スル、部分ヲ擔任ス、

第五十三條ニハ、重罪、輕罪ノ刑ニ處セラレタル者、獄則ヲ遵守シ、悔改ノ狀アル時ハ、其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後、行政ノ處分ヲ以テ、假ニ出獄ヲ許スヲ得、無期徒刑ノ囚ハ、十五年ヲ經過スルノ後、亦同シ、流刑ノ囚ハ、第二十一條ニ照シ、幽閉ヲ免スルノ外、假出獄ノ例ヲ用ヒス、ト記シテ、罪囚ノ改心ニ寛典ヲ加ヘ、刑期ノ區別ヲ定ム、第五十四條ニハ、徒刑ノ囚ハ、假出獄ヲ許サ、ルト雖仍ホ島地ニ居住セシム、ト記シテ、徒刑罪ノ處分ヲ定ム、第五十五條ニハ、假出獄ヲ許サレタル者ハ、行政ノ處分ヲ以テ、治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得、但本刑、期限内、特別ニ定メタル監視ニ付ス、ト記シテ、治産ノ禁ノ幾分ヲ免シテ、囚人ヲ寛典ニ處ス、第五十六條ニハ、假出獄中、更ニ重罪、輕罪ヲ犯シタル者ハ、直チニ出獄ヲ停止シ、出獄中ノ日數ハ、刑期ニ算入スルヲ得ス、ト記シテ、假出獄中ノ犯罪ヲ處分シ、第五十七條ニハ、刑期限内、更ニ重罪、輕罪ヲ犯シタル者ハ、假出獄ヲ許サスト記シテ、刑期限内、更ニ、如此、重罪、輕罪ヲ種別シテ、各囚ヲ懲罰シ、亦刑名ヲ寛假シテ、罪囚ヲ愛護スルハ、法律ノ尤モ主眼トスル所ニシテ

、刑法ハ、其罪ヲ惡テ、其人ヲ惡マサルノ本意タルヲ知ルヘシ、

○第七節、

○期滿免除、主刑ノ執行、ヲ滿レタル者、法律ノ定期ニ因テ、各罪此、期滿免除ノ法律ヲ守護スルカハ、如何ナル定限ヲ有シテ、各囚ヲ措置スルトセハ、

則チ法律ニ定規スル、刑期ヲ經過シタル囚犯ハ、罪ノ輕重ニ從ヒ、免除スルノ處分ヲ主管ス、第五十八條ニハ、刑ノ執行ヲ道レタル者、法律ニ定メタル期ヲ經過スルニ因テ、期滿免除ヲ得ト、記シテ、主刑ヲ道レタル、犯人ヲ免除スルノ期限ヲ定ム、第五十九條ニハ、主刑ハ、左ノ年限ニ從テ、期滿免除ヲ得、一、死刑、ハ三十年、二、無期徒刑ハ、二十五年、三、有期徒刑ハ、二年、四、重懲役、重禁獄ハ、十五年、五、輕懲役、輕禁獄ハ、十年、六、禁錮、罰金ハ、七年、七、拘留、科料ハ、一年、ト記シテ、各罪、免除ノ期限ヲ定ム、第六十條ニハ、刑奪公權停止公權、及ヒ、監視ハ、期滿免除ヲ得ス、附加ノ罰金ハ、主刑ト共ニ期滿免除ヲ得、沒收ハ、五年ヲ經テ、期滿免除ヲ得但禁制物ハ、期滿免除ノ限ニ非ラス、ト記シテ、罪ニ因リ、期滿免除ヲ得ルト、否トヲ區別ス、第六十一條ニハ、期滿免除ハ、刑ノ執行ヲ道レタル日ヨリ起算ス、若シ捕ニ就キ、再ヒ逃走シタル時ハ、其逃走ノ日ヨリ起算シ、關帝裁判ニ係ル時ハ、其宣告ノ日ヨリ起算ス、ト記シテ逃走犯人、期滿免除ノ日數起算ヲ定ム、第六十二條ニハ、刑ノ執行ヲ道レタル者ニ對シ、逮捕ヲ命シタル時ハ、最終ノ捕縛狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス、ト記シテ、逃囚、捕獲ノ日數ノ起算ヲ定ム、如此、織細ニ科目ヲ調裁シテ、各犯ノ終始ヲ監ス、苟モ之ヲ忽諸ニスルキハ、社會ニ不測ノ患害ヲ被ムラシムルニ至ル、主刑ノ適用、周且密ナラスンハアル可ラサルヲ知ルヘシ

○ 第八節

○ 復權、受刑シテ、公權ヲ剝奪セラレタル者、終刑ノ後、定 此復權ノ犯罪ヲ處スル  
期限ヲ經過シ、情狀ニ因リ、復權ヲ得ルヲ云フ、  
 權限ハ、何等ノ所爲ヲ以テ本務トスルトセハ、則チ制定ノ刑期年限ヲ經過スルヲ待テ、罪囚ニ公權ヲ復歸セシムルヲ擔轄ス、第六十三條ニハ、公權ヲ剝奪セラレタル者ハ、主刑ノ終リタル日ヨリ、五年ヲ經過スルノ後、其情狀ニ因リ、將來ノ公權ヲ復スルヲ得、主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ、監視ニ付シタル日ヨリ、五年ヲ經過スルノ後、亦同シ、ト記シテ、復權ヲ得ルノ期限ヲ定ム、第六十四條ニハ、大赦ニ因テ、免罪ヲ得タル者ハ、直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ、免罪ヲ得タル者ハ、赦狀中、記載スルニ非サレハ、復權ヲ得ス、赦ニ因テ、復權ヲ得タル者ハ、自カラ監視ヲ免シタル者トス、ト記シテ大赦特赦ヲ區別シ、故ニ因テ復權ヲ得ル者、監視ヲ免シタルモノト看做スノ別ヲ辨ス、第六十五條ニハ、復權ハ、勅裁ニ非サレハ、之ヲ得可カラズ、ト記シテ、復權ヲ再得スルノ容易ナラサルモノヲ明ス、如此、主刑ヲ經終スル者ハ、尋常ノ人タルヲ得ルニ似タリト雖、法律ノ精神、猶能ク刑後ニ、復權ヲ得ルノ年限ヲ定メ、罪ノ輕重ニ因リ、容易ニ復權ヲ得難キ者ヲ掲載シテ、將來ノ犯ヲ懲制ス、刑法罪ヲ科スル、固ニ公平ヲ主トスルヲ知ルヘシ、

○ 第三章

○加減例、法律ニ定メタル、各條ニ比照シ、犯罪ニ因リ、此加減例ノ獲得スル分限ハ

法律ノ幾部域ヲ主管シテ、各罪ヲ加減スルトセハ、則チ社會一般

ニ關涉スル、罪犯ノ性質ヲ細別シテ、加重減輕ノ刑名ヲ科スルヲ

專擔ス、第六十六條ニハ、法律ニ於テ、刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ、假ノ數條ニ記載シタル例ニ

照シテ、加減ス、但加ヘテ、死刑ニ入ルヲ得ス、ト記シテ、加重シテ罪ヲ懲スモ、主

刑ヲ除ヘテ、死刑ニ入レサルノ分限ヲ定ム、第六十七條ニハ、重罪ノ刑ハ、左ノ等級ニ照シテ、加減

ス、一、死刑、二、無期徒刑、三、有期徒刑、四、懲役、五、輕懲役、ト記シテ、等級ヲ定メテ、罪ノ輕重ニ

加減ス、第六十八條ニハ、國事ニ關スル重罪ノ刑ハ、左ノ等級ニ照シテ、加減ス、一、死刑、二、無期徒刑、

三、有期徒刑、四、重懲役、五、輕懲役、ト記シテ、等級ヲ區別シテ、輕重ニ因テ、其罪ヲ加減ス、第六

十九條ニハ、輕懲役ニ該ル者、減輕ス可キ時ハ、二年以上、五年以下ノ重懲罰ニ處スルヲ以テ、一等

トシ、輕懲役ニ該ル者、減輕ス可キ時ハ、二年以上、五年以下ノ輕懲罰ニ處スルヲ以テ、一等ト爲ス、

トシ、輕懲役、輕懲罰ノ犯人ヲ處スル等級ヲ定ム、第七十條ニハ、禁錮罰金ニ該ル者、減輕ス可キ時ハ、

各本條ニ記載シタル、刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ、一等ト爲シ、其加重ス可キ時ハ、亦、四

分ノ一ヲ加フルヲ以テ、一等ト爲ス、輕罪ノ刑ハ、加ヘテ、重罪ニ入ルヲ得ス、但禁錮ハ、加ヘテ、

七年ニ至ルヲ得、ト記シテ、加重減輕ノ等ヲ定メ、主刑ヲ加減シテ、輕重ヲ區別スルモ、刑名ヲ改

メ、重ヲ輕ト爲シ、輕ヲ重ト爲スヲ得サルノ成規ヲ定ム、第七十一條ニハ、禁錮ヲ減盡シタル時ハ、

拘留ニ處シ、罰金ヲ減盡シタル時ハ、料料ニ處ス、禁錮罰金ヲ減シテ、其短期十日以下、零數一圓九

十五錢以下ニ及フ時ハ、亦拘留料料ニ處スルヲ得、ト記シテ、減輕處分ノ順序ヲ定ム、第七十二條

ニハ、拘留料料ニ該ル者、加減ス可キ時、禁錮罰金ノ例ニ照シ、其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ、一等

ト爲ス、違警罪ノ刑ハ、加ヘテ、輕罪ニ入ルヲ得ス、但拘留ハ、加ヘテ、十二日ニ至ルヲ得、減シ

テ一日以下ニ降スヲ得ス、料料ハ、加ヘテ、二圓四十錢ニ至ルヲ得、減シテ五錢以下ニ降スヲ

得ス、ト記シテ、拘留、料料ノ加減ヲ定限ス、第七十三條ニハ、禁錮、拘留ヲ加減スルニ因テ、其期限

ニ零數ヲ生シ、一日ニ滿サル時ハ、之ヲ除棄ス、ト記シテ、禁錮拘留期限ニ、零數ヲ生シタル時ノ成

規ヲ定ム、第七十四條ニハ、附加ノ罰金ハ、主刑ニ從テ加減シ、其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ

一、等ト爲ス、若シ減盡シタル時ハ、止テ、主刑ヲ料料ス、ト記シテ、附加罰金ハ、主刑ノ輕重ニ因リ、加

減スル者故ニ、加減ノ別ヲ定ム、如此、最大ナル法律ノ所轄ヲ袖領シ、犯罪ノ起由ヲ認定

シテ、加重減輕ノ刑名ヲ料シ、以テ擬律ノ權衡ヲ平均ニス、司法者

ノ主任、瞬時モ、等閑ニ附ス可ラサルヲ知ルヘシ、

○第四章、

○不○論○罪○及○比○減○輕○、次第ニ、重出スルヲ以テ、茲ニ註解セス、

○第一節、

○不○論○罪○及○比○宥○恕○減○輕○、意外ノ變災、己ムヲ得サルノ危難、拒リ可カラサル強制等ニ



可キ者、又ハ、精狀原諒シテ、減輕ス  
可キ者ヲ處分スル法則ヲ云フ、此不論罪及ヒ宥恕減輕ノ各犯ヲ認可シ、法

律ノ裁定ニ從テ、三箇ノ寬與ヲ如何ニ執行スルトセハ、則テ所、犯

論ス可カラサル罪ト、恕ス可キノ罪ト、減ス可キノ罪トヲ詳細ニ種

類ヲ分別シテ、適當ノ主刑ヲ科ス、第七十五條ニハ、抗拒ス可カラサル強刑ニ遇ヒ

ハ意對ノ變ニ因リ、避ク可カラサル危難ニ遇ヒ、自己、若クハ、親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲、

亦同シ、ト記シテ、己ムヲ得サル所爲ヲ認メテ、不論罪ノ別ヲ定ム、第七十六條ニハ、本屬長官ノ命

令ニ從ヒ、其職務ヲ以テ爲レタル者ハ、其罪ヲ論セス、ト記シテ、屬官ノ己ムヲ得サル所爲ヲ不論罪

トス、第七十七條ニハ、罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ、其罪ヲ論セス、但法律ニ於テ、別ニ疎虞懈怠ノ罪ヲ

定メタル者ハ、此限ニ在ラス、罪本重カルキ事實ヲ知ラスシテ、犯シタル者ハ、其罪ヲ論セス、罪本

重カル可クシテ、犯ス時知ラサル者ハ、其重キニ從テ論スルヲ得ス、法律規則ヲ知ラサルヲ以テ、

犯スノ意ナシト爲スヲ得ス、ト記シテ、己ムヲ得サルノ所爲ヲ類集シテ、不論罪ノ科條ヲ定ム、第

七十八條ニハ、罪ヲ犯ス時、知覺精神ノ喪失ニ因テ、是非ヲ辨別セサル者ハ、其罪ヲ論セス、ト記シ

テ、本心ナクシテ、犯シタル罪ヲ不論ニ定ム、第七十九條ニハ、罪ヲ犯ス時、十二歳ニ滿サル者ハ、其

罪ヲ論セス、但、滿八歳以上ノ者ハ、情狀ニ因リ、滿十六歳ニ過キサル時間、之ヲ懲治場ニ留置スル

ヲ得、ト記シテ、幼年、不論罪ノ年限ヲ定ム、第八十條ニハ、罪ヲ犯ス時、滿十二歳、以上十六歳ニ滿

サル者ハ、其所爲、是非ヲ辨別シタト否トヲ審案シ辨別ナクシテ、犯シタル時ハ、其罪ヲ論セス、但情

狀ニ因リ、滿二十歳ニ過キサル時間、之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得、若シ辨別アリテ、犯シタル時ハ

其罪ヲ宥恕シテ、本刑ニ二等ヲ減ス、ト記シテ、分別、無分別ノ所爲ヲ案シテ、不論罪、宥恕、減等ヲ定

ム、第八十一條ニハ、罪ヲ犯ス時、滿十六歳以上、二十歳ニ滿サル者ハ、其罪ヲ宥恕シテ、本刑ニ一等

ヲ減ス、ト記シテ、年齢ニ因リ、宥恕減等ヲ區別ス、第八十二條ニハ、癡弱者、罪ヲ犯シタル時ハ、其罪

ヲ論セス、但情狀ニ因リ、五年ニ過キサル時間、之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得、ト記シテ、癡弱者、不

論罪ノ成規ヲ定ム、第八十三條ニハ、違警罪ハ、滿十六歳以上、二十歳ニ滿サル者ト雖、其罪ヲ宥恕ス

ルヲ得ス、滿十二歳以上、十六歳ニ滿サル者ハ、其罪ヲ宥恕シテ、本刑ニ一等ヲ減ス、十二歳ニ滿サ

ル者、及ヒ、癡弱者ハ、其罪ヲ論セス、ト記シテ、年齢ニ因リ違警罪ハ、宥恕ヲ許サス、又ハ、十二歳未滿

、癡弱者ノ所爲ト、違警罪ト雖、不論罪ノ別ヲ定ム、第八十四條ニハ、此節ニ記載スルノ外、特別ノ不

論罪、宥恕、減輕ハ、各本條ニ於テ、之ヲ記載ス、ト記シテ、其他各種ノ所爲ハ、各條ニ照シテ、區別ス、

如此犯由ヲ三列シテ、重罪ニ加

ヘ、輕罪ニ減シ、又年齢ノ長幼ニ因リ、違警犯ノ宥恕ヲ許否スルノ

定限ヲ裁シ、細大漏ラサス、各種ノ主刑ヲ適容ス、刑法ノ目的ハ、方

圓相納レサルノ弊ナキヲ要スルヲ知ルヘシ、

○ 第二節、

○ 自首減輕、犯罪人事未ダ發覺セサル前ニ於テ前非ヲ後悔シ官此自首減輕ノ主眼

ニ申告シテ自首スル等本刑ニ一等ヲ減スルヲ云フ

ハ、多殺ノ犯罪ヲ目シ、何等ノ所爲ヲ認可シテ、減輕ヲ處分スルト

○ 自首減輕、犯罪人事未ダ發覺セサル前ニ於テ前非ヲ後悔シ官此自首減輕ノ主眼

ニ申告シテ自首スル等本刑ニ一等ヲ減スルヲ云フ

ハ、多殺ノ犯罪ヲ目シ、何等ノ所爲ヲ認可シテ、減輕ヲ處分スルト

セハ、則チ主刑ノ輕重ヲ吟味シ、事未タ發覺セサルノ期ニ先テ、官  
 司ニ自首スル者ハ、主刑ヲ減輕スルヲ任管ス、第百八十五條ニハ、罪ヲ犯シ、事  
 未タ發覺セサル前ニ於テ、官ニ  
 自首シタル者ハ、本刑ニ一等ヲ減ス、但、謀殺故殺ニ係ル者ハ、自首減輕ノ限ニ在ラス、ト記シテ、所  
 犯ニ因リ、自首ヲ免シ、謀殺故殺ノ罪ハ、減輕セサルヲ區別ス、第百八十六條ニハ、財產ニ對スル罪ヲ  
 犯シタル者、自首減等、其贓物ヲ還給シ、損害ヲ賠償シタル時ハ、自首減等ノ外、仍ホ本刑ニ二等ヲ減  
 ス、其全部ヲ還償セスト雖、半數以上ヲ還償シタル時ハ、一等ヲ減ス、ト記シテ、財產ノ罪ヲ犯シ、贓  
 物、損害ヲ還償シタルモノハ、自首ヲ免ス、半數以上ヲ償還スルモノハ、一等ヲ減スル、定刑ヲ立ツ、  
 第百八十七條ニハ、財產ニ對スル罪ヲ犯シ、被害者ニ首服シタル者ハ、官ニ自首スルト同ク、前二條ノ  
 例ニ照シテ、處斷ス、ト記シテ、被害者ニ首服スルモノ、官ニ自首スルト、同首ヲ示ス、第百八十八條ニ  
 ハ、此節ニ、記載スルノ外、本條、別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ、各其本條ニ從フ、ト記シテ、自首例  
 ヲ別ニ掲ケタル者ハ、各其本條  
 顯然タルヲ定察シテ、謀殺故殺ヲ去リ、自他、自首首服罪ニ減輕ヲ科  
 スハ、社會ニ向テ再犯セサル者ト看做スモノニシテ、刑法ノ恕スル  
 所、亦情理ニ負カサルヲ知ルヘシ

○第三節、

○酌量減輕、輕重、違警罪ヲ分クテ、所犯ノ起因ヲ深查シ、情狀斟酌  
 ス可キ者ハ、酌量シテ、主刑ヲ減輕スルヲ云フ、此酌量減輕ノ法  
 律ヨリ生シタル性質ハ、幾分ノ監識ヲ具シ、諸般ノ犯故ヲ析別シテ  
 、刑名ヲ比照スルトセハ、則チ重罪、輕罪、違警罪ノ三種ヲ部分シ、  
 其各種ノ所犯ニ因テ、條目ニ裁定スル刑名ヲ命令ス、第百八十九條ニハ、重  
 罪、輕罪、違警罪ヲ分  
クテ、所犯ノ情狀原諒ス可キ者ハ、酌量シテ、本刑ヲ減輕スルヲ得、法律ニ於テ、本刑ヲ加重シ、又ハ  
 減輕ス可キ者ト雖、其酌量ス可キ時ハ、仍ホ之ヲ減輕スルヲ得、ト記シテ、三罪ノ減輕、酌量法ヲ  
 定ム、第百九十條ニハ、酌量減輕ス可キ者ハ、本刑ニ一等、又ハ二等ヲ減ス、ト記シテ、酌量減輕ノ定限  
 ヲ立  
 ツ、如此、犯証ノ抵據ヲ確審スルハ、其情狀ノ酌量ス可キト、所犯ノ  
 減輕ス可キトハ、判然トシテ、明白ナルヲ以テ刑法ノ本意ニ於テ、  
 酌量減輕セスンハアル可カラサル作事タルヲ知ルヘシ、

○第五章、

○再犯加重輕重罪ヲ犯シ、主刑ニ處セラレタル者、再犯重  
 罪ニ該ル時、本刑ニ一等ヲ加フルヲ云フ、此再犯加重ノ主義タル、

法律ノ分任ヲ負フ、幾位ノ間限ヲ權有シテ、罪囚ヲ懲制スルトセハ、則チ三箇ノ定罪ヲ重罪、輕罪、違警罪等ヲ云フ、類別シテ、再犯以上ニ至ル者ハ、本

刑ニ一等ヲ加重スルヲ擔掌ス、第九十一條ニハ、先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者、再犯重罪ニ該ル時ハ、本刑ニ一等ヲ加フ、記シテ、再犯

加重ノ處分裁定ス、第九十二條ニハ、先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者、再犯輕罪ニ該ル時ハ、本刑ニ一等ヲ加フ、ト記シテ、再犯輕罪ノ主刑ヲ定ム、第九十三條ニハ、違警罪ノ刑ニ處セラレタル者、再犯違警罪ニ該ル時ハ、本刑ニ一等ヲ加フ、但一年內再犯其違警罪裁判所ノ管轄內ニ於テ、犯シタル時ニ非サレハ、再犯ヲ以テ論スルヲ得ス、ト記シテ、違警罪再犯ノ處分ヲ區別ス、第九十四條ニハ、再犯加重ハ、初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ、之ヲ論スルヲ得ス、記シテ、再犯加重ノ成規ヲ定ム、第九十五條ニハ、刑期限內、再犯罪ヲ犯スニ因リ、刑ヲ宣告シタル時ハ、先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ、定役ニ服セサル者ヲ後ニス、若シ、初犯再犯、共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時、又ハ、共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ、先ツ其重キ者ヲ執行ス、ト記シテ、刑期限內、再犯加重ノ處分方ヲ定ム、又、罰金料料ニ該ル者ハ、順序ニ拘ハラス、各自ニ之ヲ徵收ス、トアリテ、罪罰金料料ニ、該ル者ノ、處分ヲ分ツ、第九十六條ニハ、陸海軍裁判所ニ於テ、判決ヲ經タル者、再犯重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ、初犯ノ罪、常律ニ從ヒ、處斷シタル者ニ非サレハ、再犯ヲ以テ論スルヲ得ス、ト記シテ、陸海軍入、ノ再犯加重ノ罪ヲ處スル區別ヲ立ツ、第九十七條ニハ、大赦ニ因テ、免罪ヲ得タル者ハ、再犯罪ヲ犯スト雖モ、再犯ヲ以テ論スルヲ得ス、ト記シテ、大赦ヲ得ル者再犯ノ罪ヲ別ツ、第九十八條ニハ、三犯以上ノ者ト雖モ、其加重ノ法ハ、再犯ノ例ニ同シ、ト記シテ、三犯以上ノ處分ヲ定ム、如此、犯狀ヲ細察シ、各條ヲ網羅

シテ、主刑ヲ適該ス、刑法寛ナリト雖、其漏レナキモノ知ルヘシ、

○第六章、

○加減順序所犯ノ情狀ニ因リ、首從、又ハ、輕重罪ノ順序ニ從ヒ、加減ノ刑名ヲ科スルヲ云、此加減順序ハ、何等ノ地位

ヲ占得シ、法具ヲ各犯ニ比照シテ、罪科ノ首從ヲ順序シ、刑名ヲ加

減スルトセハ、則チ正犯、從犯、未遂犯ヲ部別シ、輕重ノ順序ニ從テ

、主刑ノ加減ヲ定ム、第九十九條ニハ、犯罪ノ情狀ニ因リ、總則ニ照シ、同時ニ、本刑ヲ加

送犯罪ノ減等、其他各本條ニ記載スル、特別ノ加重減輕ハ、其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス、一、再犯加重、二、宥恕減輕、三、自首減輕、四、酌量減輕、ト記シテ、罪ノ輕重ヲ順序シ、主刑ノ加減方ヲ各別、如此、罪類ヲ詳析スルニカテ勞シ、法律ヲ寬ニシテ、缺點ヲ彌縫スルニ心ヲ用ヘ、以テ刑名ヲ犯囚ニ科スル、刑ノ執行、ヲ易マトシテ少モ困難ナキヲ知ルヘシ、

○第七章

○數罪俱發、先ニ輕重罪ヲ犯シ、未タ判決ヲ經ス、又ニ罪以上、俱ニ發スル此、數罪俱發

ノ價值ハ、幾續ノ目録ヲ旋ヘテ、犯囚ヲ網羅シ、數罪ノ限界ヲ輕重

スルトセハ、則チ姑ク、違警罪ヲ令キ、輕重罪ヲ判決スレハ、前發ノ

罪、後發ノ罪ヨリ重ケレハ、其一ノ重キニ從テ論決ス、第百二條ニハ、重罪、輕罪ヲ犯シ、未タ

判決ヲ經ス、二罪以上、俱ニ發シメル時ハ、一ノ重キニ從テ處斷ス、ト記レテ、數罪俱發ノ處分ヲ定ム

又重罪ノ刑ハ、刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ、刑期ノ等キ者ハ、定役アル者ヲ以テ重ト爲ス、輕罪

ノ刑ハ、其所犯ノ情狀最重キニ從テ處斷ス、トアリテ、刑期ノ長短ニ因リ、罪ノ輕重ヲ別ツ、第百一條

ニハ、違警罪、二罪以上、俱ニ發シタル時ハ、各自ニ其期ヲ料ス、若シ、重罪又ハ、輕罪ト俱ニ發シタル

時ハ、一ノ重キニ從フ、ト記シテ、違警罪ニ罪以上俱發ハ、各自ニ其期ヲ料シ、輕重罪俱發ハ、一ノ重

キニ從フ、處分ヲ定ム、第百二條ニハ、一罪前ニ發シ、己ニ判決ヲ經テ、餘罪後ニ發シ、其輕ク若クハ

等シキ者ハ、之ヲ論セス、其重キ者ハ、更ニ之ヲ論シ、前發ノ刑ヲ以テ、後發ノ刑ニ通算ス、但前發ノ

刑罰金料料ニ該リ、己ニ納完シタル者ハ、第百二十七條ノ例ニ照シ、若シ、前發ノ罪ヲ判決スル時、未

タ發セサル罪、再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ、其再犯ト比較シ、一ノ重キニ從ヒ、前發ノ刑ヲ通算セ

ス、ト記シテ、各罪、百種ノ判決ヲ定ム、第百三條ニハ、數罪俱ニ發シ、一ノ重キニ從フ時ト雖、其沒收、

及ヒ、賠償ノ處分ハ、各本法ニ從フ、ト記シテ、主刑ノ、數罪俱發ニ因ルト雖モ、沒收、及ヒ、賠償等ノ

處分ハ、各本法ニ從フノ、如此、周到ノ方法ヲ確樹シ、罪發ノ頭尾ヲ比照シ

テ、所犯ノ輕軒ヲ監識シ、徐ニ刑名ヲ擬スルニ至テハ、百罪俱發ス

ト雖、決テ難キニ非サルヲ知ルヘシ、

○第八章

○數人共犯、二人以上、罪ヲ犯セハ現犯ヲ正犯ト

○第一節、爲シ、各自ニ刑ヲ料ス、次節詳之、

○正犯、第百八章、數人共犯ノ部ニ含蓄スルモノト雖、第百九章、首ニ在テ、各此正犯ト署スル

刑名ハ、所犯ノ罪價、何等ヲ指認シテ、首從ノ階級ヲ甲乙シ、主刑ノ

當該ヲ公平ニスルトセハ、則チ二名以上、重罪、輕罪ヲ犯シタル時

ニ際シテハ、現犯法ニ觸ル、者ヲ日照シテ、正犯ト爲シ輕重ニ從テ

其罪ヲ科ス、第百四條ニハ、二人以上、俱ニ罪ヲ犯シタル者ハ、皆正犯ト爲シ、各自ニ其刑ヲ科ス、ト記シテ、正從犯罪ノ別ヲ定ム、第百五條ニハ、詐欺、脅迫、贈與、結約、威權、其他故意ヲ以テ、人ヲ教唆シテ、重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ、亦正犯ト爲ス、ト記シテ、各種ノ所犯ハ、教唆者ヲ正犯ト爲シテ、處分ノ成則ヲ定ム、第百六條ニハ、正犯ノ身分ニ因リ、別ニ刑ヲ加重ス可キハ、他ノ正犯、從犯、及ヒ、教唆者ニ及ホス、ト記シテ、正犯ノ罪別ニ刑ヲ加重ス可キハ、教唆者ヲ算入シテ、多數ト爲ス、ト記シテ、第百七條ニハ、犯人ノ多數ニ因リ、刑ヲ加重ス可キ時ルノ法ヲ定ム、第百條ニハ、事ヲ指定シテ、犯罪ヲ教唆スルニ當リ、犯人教唆ニ乘シ、其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ、又ハ、其現ニ行フ所ノ方法、教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ、左ノ例ニ照シテ、教唆者ヲ處斷ス、一、所犯、教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ、止テ、其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス、二、所犯、教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ、現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス、ト記シテ、教唆犯罪、各種ノ所爲ニ對シテ、處分ヲ定限ス、如此、罪囚ヲ明證スルノ法備ヲ鄭重ニシ、所犯ノ顯隱ニ因リ、正從ノ分ヲ種別シテ、恰當ノ主刑ヲ科ス、法律ノ犯罪ニ適中スル地下帳ヲ含ムノ冤民ナキヤ、知ルヘシナリ

○ 第二節

○ 從犯、正犯ヲ補助シ、或ハ、器械等ヲ給與シ、百方手ヲ盡シ、或ハ、誘導指示シ、其他從犯ノ所爲ヲ、容易ナラシムル者ヲ云フ、此、從犯ノ性質ハ、社會ノ

廣キニ對シ、何限ノ所爲ヲ目認シ、正從ノ分界ヲ如何シテ、畫判スルトセハ、則チ陰ニ犯人ノ所爲ヲ幫助スル者ヲ概指シテ從犯ト爲シ、正犯ニ一等ヲ減シテ、其刑ヲ科ス、第百九條ニハ、重罪、輕罪ヲ犯ス、ト記シテ、所爲ヲ以テ、正犯ヲ補助シ、犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ、從犯ト爲シ、正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス、但、正犯、現ニ行フ所ノ罪、從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ、止テ、其知ル所ノ罪ニ照シ、一等ヲ減ス、ト記シテ、正從ノ犯罪ヲ區別ス、第百十條ニハ、身分ニ因リ、刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ、從犯ノ輕ハ、其輕キニ從テ減免スル、ト記シテ、如此、所犯ノ變動ヲ深念シ、法網ノ組成ヲ周密ニシテ、罪據ノ本支ヲ見列シ、正從ノ段階ニ因テ、刑名ヲ其犯ニ科ス、刑法ノ執行、符節ヲ合ハスルヨリモ順當ナルヲ知ルヘシ、

○ 第九章

○ 未遂犯罪、罪ヲ犯サン、ト謀リ、其手段ヲ爲シ、テ、未タ其事ヲ行ハサルヲ云フ、此未遂犯罪ノ主刑ハ、何レノ所犯、何レノ罪由ヲ認識シテ、刑名ヲ命中スルトセハ、則チ犯ヲ謀

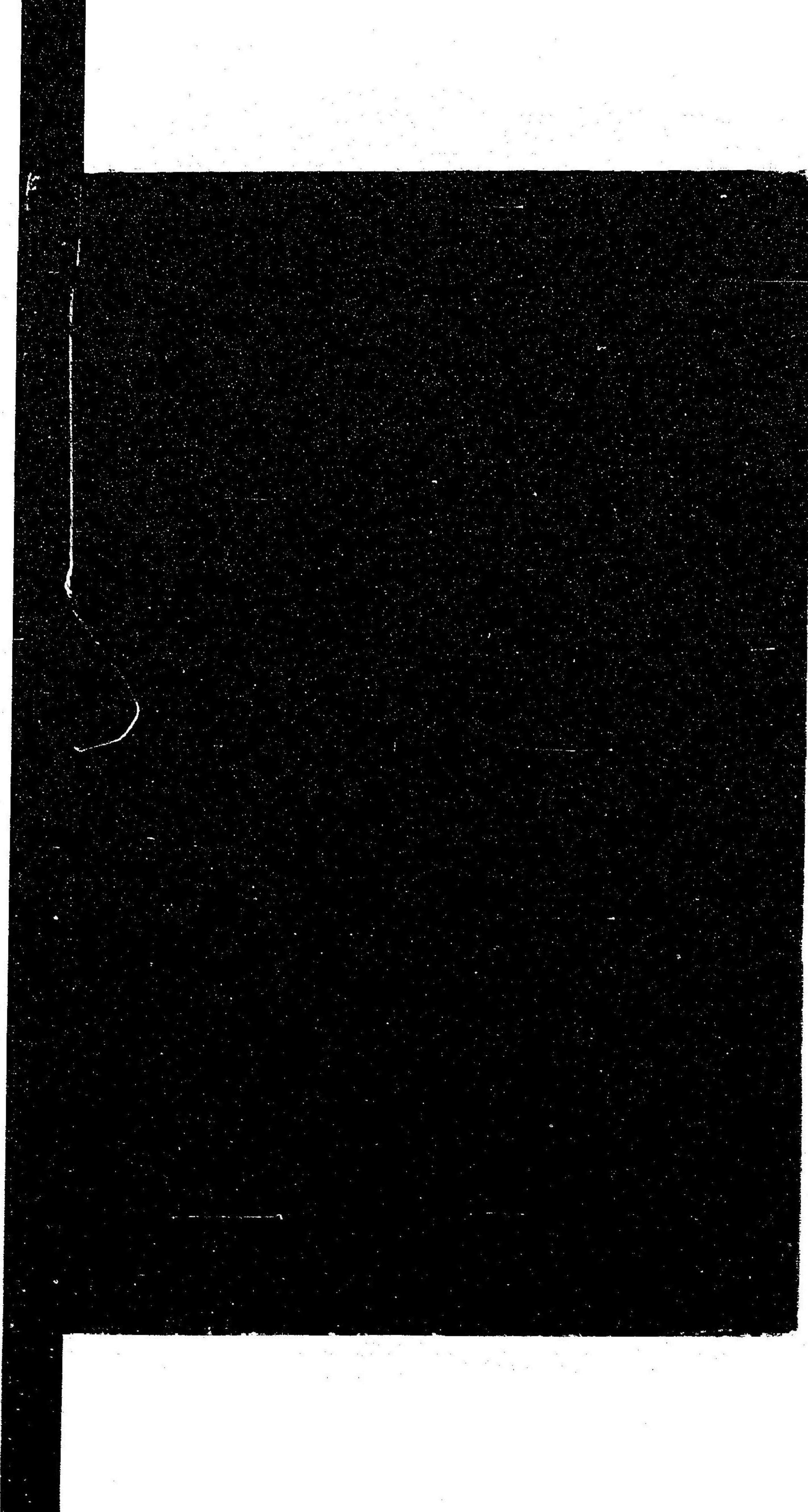
リ、未タ其事ヲ行ハサル者ヲ証明シ、已遂犯ニ一等ヲ減シテ、其罪ヲ處決ス、第百十一條ニハ、罪ヲ犯サンコトヲ謀リ、又ハ、其豫備ヲ爲スト雖モ、未ダ其事ヲ行ハサル者ハ、本條、別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ、其刑ヲ科セス、ト記シテ、刑名ナキ未遂犯ノ處分ヲ定ム、第百十二條ニハ、罪ヲ犯サントシテ、已ニ其事ヲ行フト雖モ、犯人意外ノ障礙、若クハ、殊錯ニ因リ、未ダ遂ケサル時ハ、已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等、又ハ二等ヲ減ス、ト記シテ已ニ行テ事遂ケサル、犯罪ヲ處分スル法ヲ定ム、第百十三條ニハ、重罪ヲ犯サントシテ、未ダ遂ケサル者ハ、本條、別ニ記載スルニ非サレハ、前條ノ例ニ照シテ、處斷スルコトヲ得ス、違警罪ヲ犯サントシテ、未ダ遂ケサル者ハ、其罪ヲ論セス、ト記シテ、重罪、輕罪、違警罪ノ三犯ヲ區別シテ、處分法ヲ定ム、如此、深ク犯意ノ蕪與ヲ搜得シ、罪位ノ輕重ヲ權衡シ、已ニ行テ未タ遂ケサルト、已ニ謀テ未タ行ハサルトヲ確列シテ、刑名ヲ適用ス、刑法ノ犯患ヲ豫防スル、懲到ナルヲ知ルヘシ、

○第十章

○親屬例、親等ノ親疏ニ因リ、罪ノ輕重ヲ區別シ、刑名ヲ定限ヲ立テ、各順序ニ因リ、犯罪ヲ處分スルヲ云フ、此親屬例ハ、何ノ爲ニ刑法中ニ編載シ、親疏ノ界畫ヲ嚴立スルトセハ、則チ法律ハ固ト情

理ニ出ツ、親屬己ム可カラサル情愛ニ基キ、親疏ノ順階ニ從テ、刑法ヲ裁定ス、第百十四條ニハ、此刑法ニ於テ、親屬ト稱スルハ、左ニ記載シタル者ヲ云フ、一、祖父、及ヒ其配偶者、五、父母ノ兄弟姉妹、及ヒ其配偶者、六、父母ノ兄弟姉妹ノ子、七、配偶者ノ祖父、父母、及ヒ其配偶者ノ兄弟姉妹、及ヒ其配偶者、九、配偶者ノ兄弟姉妹ノ子、十、配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹、ト記シテ、等親ノ親疏ヲ區別ス、第百十五條ニハ、祖父、祖母、曾祖父、曾祖母、外祖父、外祖母、同シ、父母ト稱スルハ、繼父、母、同シ、子孫ト稱スルハ、庶子、曾孫、外孫、同シ、兄弟姉妹ト稱スルハ、異父異母ノ兄弟姉妹同シ、養子、其養家ニ於ル、親屬ノ例ハ、實子ニ同シ、ト記シテ、等親ノ順序、及ヒ、名稱ヲ區別シ、養子ノ養家ノ親屬ニ於ルノ例ヲ揭示ス、如此、親等ノ親疏ニ因シ、情愛ノ漸ク遠カル所ニ從テ、遍ク社會ノ公衆ニ及ホシ、法律ヲ裁定スル所ハ、主刑ノ順序自ラ立チ、親疏ノ辨自ラ明カナリ、親等ノ階級ヲ順序スルハ、刑ノ適用ニ於テ、最必需ノ者タルヲ知ルヘシ、

新律適用第一篇終





館書圖京東	
函七三	門新
架九	部一
號	類

特39  
795

036280-001-3

特39-795

新律適用

平山 果/編

上

M14

BBP-1007

